

# 隠退牧師専用住宅「信愛荘」訪問記

シルバーホーム「まきば」施設長 鈴木 卓也

6月5日、東京都青梅市に「信愛荘」を訪ねました。「信愛荘」は、隠退した牧師とその配偶者のために用意された専用住宅です。

お昼過ぎに訪ねると、池田浩二主事が玄関で待っていてくださいました。笑顔で迎えられて入ってみると、白を基調にした清楚な吹き抜けの玄関ロビーがあり、内部は機能的で実用重視の堅実な集合住宅というイメージでした。

入居定員22名、個室と夫婦用の部屋があります。一人部屋は6畳一間で2人部屋は6畳が二間あります。自立型の施設のため、介護が重くなると転居しなくてはなりません。これは入居時に必ず説明をして納得していただくこととなります。有料老人ホームの類型で言うと「健康型」ということとなります。



▲池田主事

食事は3度食堂で召し上がっていただきます。従業員は、住み込みのご夫婦2人と池田主事だけで、その他厨房のパート5~6人で運営

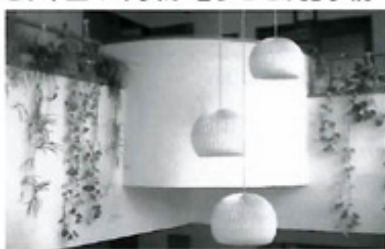


しておられます。入居者が病気になった時は、少し離れた協力病院まで、池田主事がご自分の乗用車に乗せて送ってられるそうです。立派な礼拝堂があって、毎週日曜日には聖日礼拝が持たれています。説教は、入居しておられる先生方が交代で勤めておられます。その他、最近完成した大きな集会室があり、多人数の来訪にも対応できるようになっています。隠退教師の住宅らしく、こぢんまりとした勉強部屋があります。そこには、キリスト教の専門書が壁一面びっしりと並んでいました。

東京教区と西東京教区が責任を持って運営していますが、総収入の約3分の2は献金で賄われています。これからの課題は、婦人教職のためのホーム「にじのいえ」との合同と、それに伴う改築にあるそうです。これから設計が始まり、資金計画を立てて全国募金が始まる予定です。

池田主事のご案内で施設を見学させていただき、また3時間に亘る話し合いを通して、「まきば」のこれからのあり方に、随分多くのヒントをいただきました。

平均寿命の伸びで、教師隠退後の生活が長くなること。これから団塊世代の教師が隠退するようになること。年金の不安が増すこと。諸事情



▲吹き抜けロビー



▲礼拝堂



▲勉強部屋

を勘案すると隠退教師住宅のニーズはますます高くなるのではないかと予想されます。

「信愛荘」と「まきば」という、形態も果たす役割も違うけれど、他にない類似点を持つ二つの施設が、互いに情報を交わし協力・共存していくために、それぞれの

の長所を生かして運営しながら、これからも交流を続けていくことを約束しました。

近いうちに、池田主事にも「まきば」にお越しいただく約束をして帰ってきました。